

女の125連勝

VH2男子単

「絶対王者」の称号を証明した。バドミントン男子シングルスで梶原は2021年東京大会から始まった国際大会での連勝が125に、3年間、離れながらも練習してきた自

「絶対王者」の称号を証明

信がある。今回は自分の実力、別格」と舌を巻く。

光明を見たい、今やスポーツ

ベテラン、若手融合し悲願

展開で、3点のビハインドで第2セットに突入。嫌な流れを変えたのは、橋本だった。22-22で迎えた残り1分余り。敵陣で相手のパスをカットしてトライにつなげ、前半を24-23で折り返した。橋本は両チーム最多の19得点。新エースは

最後まで全力

男子シングルス3回戦で敗れた真田=パリ

大谷桃子の話 (女子シングルスで2回戦敗退) 1

3月に腰椎を圧迫骨折、試合を通して、相手がいかに、けがが治らないまま今、プレーを続けていたことが



一般女子の部ミッドクイーンズに立った。インは13番パー1のトリプルボギーなどで40と乱れたが、前半の貯金40と逃げ切った。2位は19歳加藤(美)が初優勝を飾った。グリーンは難しかった。佐野(美)が初優勝を飾った。スコアメイクに苦しむ選手が続出。松枝はアウェーを3バーティの33で単独首位の歴史に就いて大会史上2

初戴冠にも悔し涙 松枝

松枝は打ち切らずに4打ショートで3パット。三つの貯金を一気に吐き出した。続く14番もボギー。プロを目指すアスリートに許せない崩れ方だった。

初戴冠にも悔し涙 松枝

松枝は打ち切らずに4打ショートで3パット。三つの貯金を一気に吐き出した。続く14番もボギー。プロを目指すアスリートに許せない崩れ方だった。



「必ずNBAのコートに」決意

必すNBAのコートに決意

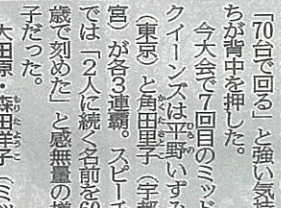
必すNBAのコートに決意

知事盃ゴルフ

一般女子の部ミッドクイーンズに立った。インは13番パー1のトリプルボギーなどで40と乱れたが、前半の貯金40と逃げ切った。2位は19歳加藤(美)が初優勝を飾った。グリーンは難しかった。佐野(美)が初優勝を飾った。スコアメイクに苦しむ選手が続出。松枝はアウェーを3バーティの33で単独首位の歴史に就いて大会史上2

初戴冠にも悔し涙 松枝

松枝は打ち切らずに4打ショートで3パット。三つの貯金を一気に吐き出した。続く14番もボギー。プロを目指すアスリートに許せない崩れ方だった。



延期の三重戦 10月2日開催

延期の三重戦 10月2日開催

松枝(下野)1打差逃げ切り

一般女子

【一般女子の部決勝大会】(6026F)

1	松枝(下野)	40
2	加藤(美)	41
3	佐野(美)	42
4	田中(美)	43
5	山田(美)	44
6	鈴木(美)	45
7	高橋(美)	46
8	橋本(美)	47
9	石川(美)	48
10	斎藤(美)	49
11	伊藤(美)	50
12	高木(美)	51
13	山崎(美)	52
14	佐々木(美)	53
15	渡辺(美)	54
16	中村(美)	55
17	山口(美)	56
18	木村(美)	57
19	水野(美)	58
20	宮田(美)	59
21	森田(美)	60
22	松本(美)	61
23	斎藤(美)	62
24	伊藤(美)	63
25	高木(美)	64
26	山崎(美)	65
27	佐々木(美)	66
28	渡辺(美)	67
29	中村(美)	68
30	山口(美)	69
31	木村(美)	70
32	水野(美)	71
33	宮田(美)	72

原。2018年の農社会人女子アマ以来6年ぶりの栄冠といつともあり、久しぶりでうれしいと笑みがこぼれた。

16年の全日本パブリック女子シングルス選手権を制した実力者も、「辛抱と勇気の連続だった」と舌を巻く。松枝は「インは43と乱戦でスウィッチが入らなかったが、70台で回る」と強い気持ちで前半を押し切った。

今年大会で7回目のミッドクイーンズは平野いずみ(東宮)と角田里子(宇都宮)が各3連覇。スピンでは「2人に続く名前を60歳で列めた」と感無量の様子だった。

大田原・森田洋子(ミッドクイーンズの部で2位)で勝つてはいけぬ。